

## アルゼンチンの政治情勢（10月分）

（公開情報を取りまとめたもの）

2006年11月作成

在アルゼンチン大使館

### 1. 概要

ペロン元大統領の遺体移送式典において、国内最大労組である労働総同盟（CGT）内の内紛が表面化し、発砲事件にまで発展した。ミシオネス州憲法改正議会議員選挙において、キルチネル大統領による支持を得ていた現知事陣営が、知事の無期連続再選に反対する野党連合に敗北した。また、軍政期の人権侵害に関わる裁判の重要な証人が、約2ヶ月に亘り失踪しており、マスコミは、同事件を大きく扱っている。

外交面では、キルチネル大統領のボリビア訪問、タイアナ外相のウクライナ及び露訪問、ガレ国防相の仏、露及びウクライナ等訪問、シオリ副大統領の中国訪問が行われた他、ボリビア外相、仏予算相及び墨次期大統領が訪亜した。また、1994年に起こったイスラエル共済会館爆破事件を担当する亜特別検察官は、元イラン政府高官等が、同事件に関与した疑惑があるとして告訴状を亜連邦裁判所（下級審）に提出した。

### 2. 内政

#### （1）ペロン元大統領の遺体移送式典

（イ）ペロン元大統領の遺体は、これまでブエノスアイレス市のチャカリータ墓地に埋葬されていたが、生前、ペロン元大統領が、ブエノスアイレス州において永眠したいと発言していたことから、2003年に当時のドウアルデ大統領が、ペロン元大統領の遺体をブエノスアイレス州サンビセンテ市に移送することを推進し、同霊廟の建設が決定した。同市が選ばれたのは、ペロン元大統領が、エバ・ペロン元大統領夫人（通称：エビータ）と共に、同市にある広大な別荘地で過ごしていたことがあるためと言われている。

（ロ）ペロン党忠誠の日にあたる10月17日、ペロン元大統領の遺体の移送作業が実施されたが、同日、ペロン元大統領の遺体が、サンビセンテ市の別荘地に到着する前後、同別荘地付近において、労働者保護政策を打ち出していたペロン元大統領との関係が良好であったこと等を理由に同移送作業を担当していた労働総同盟（CGT）内で、トラック労組と建設労組ラプラタ市支部の組合員が、移送式典の舞台の奪い合い等により、殴り合いの喧嘩や投石を繰り返す等の暴力事件が発生した。同式典は、トラック労組代表でもあるモジャーノCGT書記長等が取り仕切るようになっていた。

また、遺体の到着前には、突然、別荘地外からトラック労組員1人が拳銃を取り出し、別荘地内にいた建設労組員に向けて発砲する事件が発生し、当地メディアは、同発砲の瞬間をカメラに収め、同発砲事件を大きく扱った。拳銃発砲により、少なくとも2名の負傷者が出たと見られており、事件全体としては、約50名の負傷者が出た。拳銃を発砲した犯人は、モジャーノCGT書記長の息子であるパブロ・モジャーノ・トラック労組幹部の運

転手エミリオ・キロスであると見られており、警察は、同人の行方を追っていたが、18日夕方、同人は警察に自首した。

(ハ)当初、キルチネル大統領は、同式典に出席する予定であったが、暴力事件が発生したことにより、急遽、出席を取り止めた。

## (2) ミシオネス州憲法改正議会議員選挙

(イ)29日、ミシオネス州憲法改正議会議員選挙が実施された。同州憲法改正の唯一の争点は、同州知事の無期連続再選を可能にするか否かであり、二期目のロビラ現知事は、知事職の連続三選を禁じている現行憲法を改正し、同州知事の無期連続再選を可能にしようと試みた。

(ロ)同選挙は、ロビラ知事の従姉妹を筆頭候補とする与党側とホアキン・ピニャ司教を筆頭候補とする野党連合の一騎打ちとなったが、結局、同州憲法改正に反対する野党連合が、35議席中20議席を獲得し、15議席しか獲得できなかった与党陣営に勝利した。

(ハ)なお、キルチネル大統領は、選挙の約1ヶ月前にミシオネス州を訪問し、また選挙直前には閣僚等を派遣するなど、ロビラ知事を全面的に支援していたが、選挙結果についてはコメントを控えている。

(ニ)今次選挙の結果は、国内政局に影響を与えており、例えば、州憲法の改正等を通じて、再選を目指していた他の州知事等が再選を断念する等の影響が出ている。

## (3) 軍政期の人権侵害(証人の失踪事件)

(イ)9月18日、軍政期に人権侵害を行った疑惑のある元警察高官のエチェコラツツ被告に関わる裁判における重要な証人であるホルヘ・フリオ・ロペス氏(77歳)が、突然行方不明となった。

(ロ)9月19日、ブエノスアイレス州ラプラタ市連邦裁判所(下級審)は、エチェコラツツ被告に対して、終身刑の判決を下した。

(ハ)9月28日、人権NGO「五月広場の母達」のエベ・デ・ボナフィニ代表は、同人の失踪事件に関して、キルチネル大統領に協力していく姿勢を示す一方、「我々にとって、同氏の事件は、典型的な行方不明事件ではない。ロペス氏には、警官の親戚がおり、回りを治安関係者で囲まれている。同氏自身の経歴を調査すべきである」等と述べた。

(ニ)10月3日、同氏の家族は、大統領府において、キルチネル大統領と会談し、政府に対して、同氏の捜索への協力を求めた。

(ホ)ロペス氏が行方不明となった原因については、これまでエチェコラツツ被告の裁判の関係者による誘拐、一般犯罪としての誘拐、ロペス氏自身の痴呆症による失踪等様々な憶測が流れているが、11月17日現在、警察の必死の捜査にも関わらず、同氏の行方は、未だ分かっていない。

#### (4) 最近の政府とカトリック教会の関係

(イ) 8月下旬、ミシオネス州のホアキン・ピニャ司教は、10月29日の同州憲法改正議会議員選挙における野党側の筆頭候補になることを決めた。

(ロ) 9月26日、キルチネル大統領は、同州ポサーダス市における演説の中で、ロビラ州知事への支持を表明した。

(ハ) 9月27日、同市のルベン・マルティネス司教は、キルチネル大統領が、軍政時代に大変な思いをしたことについて語っているが、果たしてそのような思いをした経験があるのかと疑問を呈した。

(ニ) 9月30日、キルチネル大統領は、「何人かの聖職者には、(軍政時代の罪を洗い流す) 聖水をかけなければならない」等と述べて、改めて一部司教を批判した。

(ホ) 10月1日、ブエノスアイレス市大司教であるベルゴグリオ枢機卿は、キルチネル大統領に対して、憎悪と軋轢を根絶することを求めると共に、我々は、兄弟のように生きるべきであると述べた。

(ヘ) 10月3日、ブエノスアイレス市大司教報道官のマルコー司教は、「キルチネル大統領が、(社会の) 分断を推進するならば、それは、国民にとって危険なことである」等と述べると共に、憎悪を助長しないよう求めた。

(ト) 10月3日、フェルナンデス内相は、同大司教報道官の発言にすぐさま反応し、「同報道官は、亜国民により選ばれたキルチネル大統領が、憎悪を助長している等と言うべきではない。それは、デタラメである」と述べた。

(チ) 10月4日、ブエノスアイレス市教会筋は、大司教報道官の上記発言は、個人的な意見である旨述べて、トーンダウンを図った。

### 3. 外交

#### (1) ボリビア

##### (イ) チョケウアンカ・ボリビア外相の訪亜

17日、タイアナ外相は、チョケウアンカ・ボリビア外相と会談を行い、ボリビア移民、亜ボリビア両国国境におけるインフラ整備、ボリビア産天然ガスに関する協力等、二国間関係全般につき協議を行った。

##### (ロ) キルチネル大統領のボリビア訪問

(i) 19日、キルチネル大統領は、ボリビアのサンタクルス・デ・ラ・シエラ市を訪問し、モラレス大統領と会談した(タイアナ外相、デビード公共事業相及びミセリ経済相同行)。

(ii) 両大統領は、ボリビア産天然ガスの対亜輸出拡大及びボリビアにおける亜の投資等に関するエネルギー合意文書に署名した。主な内容は以下の通り。

##### (a) ボリビア産天然ガスの対亜輸出拡大

●両国は、現行の亜の天然ガス輸入価格5ドル/百万BTUを維持するが、国際価格に基

づいて、半年毎に価格を調整することになる。

●現在、亜によるボリビア産天然ガスの輸入量は、日量最大7.7百万立方メートルであるが、両国は、今後20年間で、日量最大27.7百万立方メートルまで増やすことに合意した。但し、この輸入量の拡大は、2008年に完成予定の亜北東ガスパイプライン建設や新規ガス田の開発等を前提とするものであり、亜政府は、本年12月に同ガスパイプラインの拡張工事の入札を行う予定。

●今次合意においても、ボリビアは、亜に対して、対亜輸出天然ガスを「海への出口」問題を抱えるチリに転売することを禁じた。

(b) 亜のボリビアにおける投資

●亜の国営エネルギー会社(ENARSA)は、ボリビア石油公社(YPFB)と共に、ボリビアにおける天然ガスの探査及び開発を行う。

●亜は、ボリビアにおける亜向け天然ガスの水分分離プラント建設事業に対して、約4億ドルの資金を拠出すると共に、技術協力をを行う。

●YPFBは、北東ガスパイプライン建設事業計画に出資する。

●亜は、ボリビアが、亜産農産品を購入するための資金約7000万ドルを供与する。

●亜は、90年代以降、ボリビアに対して負っている債務約1300万ドルを、農業機械を供与することにより支払う。

(iii) キルチネル大統領は、「ずる賢い者(外資系石油会社)が、やるべき投資を行わないというのであれば、亜が相当な投資を行うことになろう」等と述べた。

(2) ウクライナ

(イ) タイアナ外相のウクライナ訪問

(i) 1-3日、タイアナ外相は、ウクライナを公式訪問した(中央政府及び州政府の関係者及び多数の企業関係者が同行)。

(ii) ウクライナ滞在中、タイアナ外相は、ユーシチェンコ大統領、ヤヌコーヴィチ首相、タラシューク外相、Volodymyr Makukha 経済相、Anatoly Golovklo 工業政策相、Olexander Moroz 最高会議議長等と会談した。

(iii) 2日、タイアナ外相は、タラシューク外相と会談を行ない、二国間関係を中心に話し合った。

両外相は、平和的利用を目的とした衛星ロケット打ち上げ促進に関する協力枠組み合意文書に署名した。

会談後の記者会見において、タイアナ外相は、「今次訪問は、亜経済の回復、海外進出に関心を持つ企業関係者、経済成長強化を望む政府関係者の関心等多くの重要な要素を含んでいる。我々は、今が、両国の歴史的関係をさらに緊密化するための時期であると信じている」等と述べた。

(iv) 3日、タイアナ外相は、Olexander Moroz ウクライナ最高会議議長と1時間以上に亘

り会談し、両者は、二国間関係の緊密化が非常に重要であることを確認した。

Moroz 最高会議議長は、タイアナ外相に対して、11月に亜で開催予定の亜・ウクライナ両国議会合同委員会会合に出席するため、訪亜すると伝えた。

(ロ) Golovko ウクライナ工業政策相の訪亜

(i) 9-10日、Golovko ウクライナ工業政策相率いるミッションが訪亜した。

(ii) 10日、同工業政策相は、第5回亜ウクライナ経済貿易協力合同委員会に参加した。

(ハ) ガレ国防相のウクライナ訪問

30日、ガレ国防相は、Grytsenko ウクライナ国防相と会談し、両国の軍事技術協力を推進していくことに合意した。

(3) ロシア

(イ) タイアナ外相の露訪問

(i) 3-6日、タイアナ外相率いる貿易ミッションが、露を訪問した。

(ii) 4日、タイアナ外相は、イワノフ露安全保障会議書記と会談した。両者は、現在、亜露両国が、国連安保理理事国同士であることを踏まえ、本年における国連安保理が果たすべき役割等について話し合った。

(iii) 4日、タイアナ外相は、亜企業家の他に、約200名の露政府関係者や企業関係者が参加する貿易セミナーに出席した。

(iv) 外相会談

(a) 6日、タイアナ外相は、ラヴロフ外相と会談した。両外相は、亜の今次貿易ミッションが大きな成功を収め、二国間関係の重要な一歩となったと評価した。

(b) タイアナ外相は、「対露関係は、非常に進展するであろう」、「ラヴロフ外相は、自分に対して、露が、亜の経済回復、経済力、政治的安定性及びラ米地域における中心的役割を認めていると伝えた」と述べた。

(c) ラヴロフ外相は、タイアナ外相に対して、露企業関係者が、亜におけるガスパイプライン建設計画や原子力発電所アトゥーチャ二号機建設計画への参加に関心を有している旨述べた。

(d) ラヴロフ外相は、タイアナ外相に対して、プーチン大統領によるキルチネル大統領の露訪問招待を伝えた。同訪問の日程は未定であるが、両外務省は、2007年上半期の実現に向けて調整中である。

(e) 2007年、ラヴロフ外相は、亜を訪問する予定。

(f) また、両外相は、メルコスールと露の貿易交渉を開始する重要性について話し合った。

(ロ) ガレ国防相の露訪問

27日、ガレ国防相は、露において、イワノフ露安全保障会議書記と会談し、露製ヘリコプターやレーダー等の売却等に関して話し合った。

#### (4) メキシコ

(イ) 5日、カルデロン墨次期大統領は、ラ米諸国外遊の一環として、亜を訪問し、キルチネル大統領と会談した。

(ロ) キルチネル大統領とカルデロン次期大統領は、貿易、文化、移民等に関する二国間関係や先般の墨大統領選挙について話し合った。

#### (5) フランス

##### (イ) コペ仏予算相の訪亜

(i) 5-6日、コペ仏予算相が訪亜し、キルチネル大統領、フェルナンデス首相及びミセリ経済相等と会談した。

(ii) 5日、コペ仏予算相は、キルチネル大統領及びフェルナンデス首相と会談し、シラク大統領からの書簡をキルチネル大統領に手交した。

同会談において、コペ予算相は、亜政府とのコンセッション契約を破棄されたアグアス・アルヘンティーナ(AA)社の主要株主である仏水道関係企業スエズ社が公平な形で亜を去れるよう、亜政府がスエズ社に対し補償を行うよう求めたが、キルチネル大統領は、「AA社は投資計画不履行を行った。本件は司法手続によって解決される」との従来の亜の立場を改めて表明した。

また、コペ予算相はパリクラブの公的債務問題について早期解決を亜側に求めた。会談後の記者会見で、コペ予算相は、「公的債務問題の解決が得られれば、仏亜関係に新しい活力を与えることになるであろう」と述べた。

(iii) 6日、コペ予算相は、ミセリ経済相と会談した。ミセリ経済相は、コペ予算相に対し、亜がパリクラブの公的債務問題の解決に着手する意思がある旨伝えた。

(iv) その他、5日、コペ予算相は、デビード公共事業相との間で、当国で実際に操業中、もしくは当国への進出に関心を示している仏企業等につき協議を行った。

##### (ロ) ガレ国防相の訪仏

(i) 22日より、ガレ国防相は、仏を訪問し、Alliot-Marie国防相、ミサイル製造会社MBDA代表等と会談した。

(ii) 亜国防省は、予算的制限を考慮しつつ、亜に提供されているオファーについて知るため、ガレ国防相が(仏、露及びウクライナの)武器工場を訪問する予定である旨発表していたが、ガレ国防相は、「ミサイルを購入するために(欧州諸国に)来たわけではなく、また(亜には)武器購入計画もない」旨述べ、亜政府による武器購入の意図を否定した。

#### (6) イラン

(イ) 25日、イスラエル共済会館(AMIA)爆破事件を担当するアルベルト・ニスマン特別検察官は、同事件の実行犯が、ヒズボラのメンバーであると述べると共に、元イラ

ン政府高官が、同事件に関与した疑惑があるとして告訴状を連邦裁判所（下級審）に提出した。

（ロ）同日、ニスマン検察官は、記者会見を開き、AMIA事件の犯行は、1993年8月に当時のイラン政府高官が決断したものであり、イラン政府高官は、ヒズボラのメンバーに犯行を実行するよう依頼した疑惑があると述べると共に、Rafsanjani 元大統領、Fallahijana 元情報相、Akbar Velayati 元外相等8名の国際指名手配を要請した旨明らかにした。

（ハ）25日、在亜米国大使館報道官は、「米国は、AMIA事件に関する亜政府の仕事振りを祝福する」等と述べた。

（ニ）26日、イスラエル外務省は、今次告訴を祝福すると共に、亜政府が、AMIA事件の犯人を司法の場で裁くために必要な措置を講じることを望む旨のコミュニケを発出した。

（ホ）26日、Grynwald・AMIA代表は、Kirszenbaum 在亜イスラエル協会（DAIA）会長と共に記者会見を開き、今回の告訴を非常に重要であると評価すると共に、亜政府に対して、今回の告訴内容にふさわしい外交政策をとることを求めた。

（ヘ）26日、今次告訴について、Mohsen Baharvand 当地イラン大使館臨時代理大使（亜とイランは、1994年以降、大使の派遣は行っておらず、臨時代理大使レベル）は、「（告訴内容は）虚偽であり、いかなる証拠も無い。（イランが同事件に関与しているという）このような議論は、汚職のあったガレアノ元連邦判事（AMIA事件担当）により過去に利用された手法である。イランが、ヒズボラに対して、AMIA爆破を指示したとする非難も虚偽である。これまでの全ての告訴は、CIA及びモサドの報告書に基づいている」等と述べた。

## （7）ウルグアイ

（イ）8日、世銀の国際金融公社（CFI）から、ウルグアイにおける製紙工場建設が環境に与える影響の調査を委託されたコンサルタント会社は、同建設が、ウルグアイ側だけでなく、亜側に対しても、環境に悪影響を与えることはない旨の報告書案を発表した。

（ロ）10日、同建設地からウルグアイ川を挟んで対岸に位置する亜エントレリオス州グアレグアイチュ市の市民団体は、同建設に反対するため、週末にあたる13日から15日まで、国境の橋梁（グアレグアイチュ市ーフライベントス市）を封鎖する旨決定した。

（ハ）12日、世銀は、同工場建設が、環境に悪影響を与えることではないとする上記報告書を正式に公表した。

（ニ）12日、同州コロンの市民団体の一部強硬派グループは、グアレグアイチュ市の市民団体の封鎖発表と同様に、今週末、国境の橋梁（コロンの市ーパイサンドウ市）を封鎖する旨決定した。

（ホ）12日、フェルナンデス首相及びブスティ・エントレリオス州知事は、「橋梁封鎖の決定は、同州及び国家の利益に反するだけでなく、国際裁判所及び国際機関に対する亜の

立場とも矛盾するため、同封鎖を支持しないことを表明する」旨の共同宣言に署名し、連邦政府及び同州政府が、同橋梁封鎖に反対する立場を示した。

(ヘ) 13-15日、エントレリオス州の市民団体は、ウルグアイとの国境の橋梁を封鎖した。

#### (8) スペイン

(イ) 18-19日、ヒメネス西外務省イベロアメリカ担当長官は、亜を公式訪問した。

(ロ) 18日、同長官は、クリスティーナ大統領夫人(上院議員)、タイアナ外相及びミセリ経済相と会談した。

(ハ) タイアナ外相とヒメネス長官は、二国間関係全般、二国間の戦略的パートナー計画、技術協力、文化、教育、人権等に関する政策、11月にウルグアイにおいて開催されるイベロアメリカ・サミット及びメルコスール・EU関係等について話し合った。

会談後、同長官は、記者会見を開き、両国の良好な関係を強調すると共に、「我々は、外交政策全般について話し合い、国際情勢における両国の立場に関して意見交換を行った」、「二国間関係が損なわれるような西政府に懸念を生じさせる問題は無い」、「(亜が西に対して負っている公的債務約8億ドルに関して)(二国間の)いかなる相違も、信頼と敬意の構築により、容易に解決できるであろう」等と述べた。

また、同長官は、10日後にモラティーノス西外相が訪亜する旨明らかにした。

(ニ) 19日、同長官は、キルチネル大統領及びフェルナンデス首相と会談した。元々、同会談において、キルチネル大統領の参加は予定されていなかったが、キルチネル大統領が、同長官に挨拶するために首相の執務室に赴き、途中から参加した形となった。

首相府筋は、「フェルナンデス首相とヒメネス長官は、西系中小企業が、如何に亜において投資を進めていくかについて話し合った」と述べた。

#### (9) ブラジル

(イ) 29日、伯大統領選挙の決選投票が実施され、ルーラ現大統領が当選した。

(ロ) 同日、タイアナ外相は、アモリン伯外相に対して、ルーラ大統領の再選に対して祝意を伝えた。

#### (10) 中国

(イ) 25-28日、シオリ副大統領(上院議長兼務)は、中国を公式訪問した。

(ロ) 中国において、シオリ副大統領は、曾慶紅・中国国家副主席、呉邦国・全国人民代表大会委員長常務委員委員長、「エクスポ上海2010」組織委員会関係者等と会談し、各々の国の経済状態及び二国間関係等について話し合った。

#### (11) 北朝鮮

(イ) 5日、亜外務省は、北朝鮮が、核実験を実施する予定であるとの声明を発表したことに関して、深刻な懸念を表明する旨のプレス・コミュニケを発出した。

(ロ) 9日、亜外務省は、北朝鮮が、核実験を実施したことを非難する旨のプレス・コミュニケを発出した。

(12) 要人往来

(イ) 来訪

10月5日 カルデロン墨次期大統領（キルチネル大統領との会談）  
10月5－6日 コペ仏予算相（キルチネル大統領との会談等）  
10月9－10日 フルラン伯開発商工相（デビード公共事業相及びミセリ経済相との会談）  
10月9－10日 Golovko ウクライナ工業政策相（ガレ国防相等との会談）  
10月17日 チョケウアンカ・ポリビア外相（タイアナ外相との会談等）

(ロ) 往訪

10月1－5日 ガレ国防相のニカラグア訪問（米州国防相会議出席）  
10月1－6日 タイアナ外相のウクライナ及び露訪問（貿易ミッション）  
10月2日 デビード公共事業相のポリビア訪問（ガルシア・リネラ副大統領等との会談）  
10月7日 ガレ国防相のチリ訪問（ブランロット国防相との会談）  
10月10日 デビード公共事業相のベネズエラ訪問（ラミレス石油エネルギー相との会談）  
10月19日 キルチネル大統領のポリビア訪問（モラレス大統領との会談）  
10月22日－11月2日  
ガレ国防相の仏、露、ウクライナ及びキプロス訪問  
10月25－28日 シオリ副大統領の訪中（曾慶紅・中国国家副主席との会談等）